

勧誘場面の断りに見られる「弁明」について —日本人女子学生とインドネシア人女子学生の比較—

吉田 好美

1. はじめに

断りを遂行する過程においては、様々な言語行動が用いられるが、その中でもよく用いられる言語行動として、理由を説明するための「弁明」が挙げられる。Goffman(1971)は、理由を説明するという行為は「事実上の危害(virtual offence)」に対する「修復作業(remedial work)」のひとつであるとしている。ここで言う危害とは、勧誘者の勧誘に応じないことで相手の面子をつぶすことである。当然「弁明」をしなくても、「できない」「無理だ」などといった直接的に不可表現を使用すれば、断りを遂行することは可能であるが、その理由を説明したほうが人間関係が損なわれずに済むと考えている人は多いのではないだろうか。しかしその「弁明」が、断りという行為の中でどの程度の重みを持つのか、勧誘者がその「弁明」を使用した断りを受け止めた後にどのような言語行動を取るのかについては、文化間によって違いがあると考えられ、場合によっては互いに違和感を覚えることもありうると思われる。

2. 先行研究

「弁明」に関する研究では、藤原(2004)、西村(2007)などが挙げられる。藤原(2004)では、日本語母語話者とインドネシア語話者の勧誘に対する断りを、談話完成テストで調査し分析したところ、日本人は「都合が悪い」などといった「曖昧な言い訳」が多く、インドネシア人は具体的な理由を述べるなど「明確な言い訳」が多かったとしている。西村(2007)では、断り発話の言い訳に着目し、その言い訳に対する勧誘者の言語行動について分析した。日本人とニュージーランド人の母語場面における友人同士のペアで、勧誘に対する断りを、ロールプレイで調査し分析したところ、日本人は「体調不良」を言い訳として用いることが多いことが分かった。また被勧誘者の断りを受けた勧誘者は、日本人では

被勧誘者の言い訳へ反駁する形で、ニュージーランド人は譲歩案を提示する形でより多く再勧誘が行なわれたことが分かった。

以上の研究では、日本語母語話者と日本語非母語話者の「弁明」の質や、「弁明」に対する勧誘者の反応の違いが明らかになっている。しかし明示的に不可表現を使用した場合と「弁明」を用いた際の勧誘者の反応を比較して、それぞれが断りの中で果たす役割について分析したものは、管見の限り見当たらない。

3. 研究目的と研究課題

そこで本研究では、日本人とインドネシア人の、勧誘に対する断り発話における「弁明」及び不可表現の使用頻度と、断り発話に対する勧誘者の言語行動について、どのような差違が見られるのかについて分析することによって、日本人とインドネシア人の断りのコミュニケーションに見られる「弁明」についての特徴を明らかにすることを目的とする。研究課題(以下 RQ)は以下の通りである。

RQ1. 日本人女子学生(以下 JNS)とインドネシア人女子学生(以下 INS)の断り発話において、「弁明」のみを使用した断り発話、及び不可表現を使用した断り発話の使用頻度には、どのような特徴が見られるか。

RQ2 JNS と INS の断り発話に対する、勧誘者の言語行動にはどのような特徴が見られるか。

RQ2-1. 「弁明」のみを使用した断り発話に対する JNS と INS の勧誘者の言語行動には、どのような特徴が見られるか。

RQ2-2. 不可表現を使用した断り発話に対する JNS と INS の勧誘者の言語行動には、どのような特徴が見られるか。

4. 研究方法

データは JNS と INS の友人同士のペア各 35 組の、勧誘に対する断りのロールプレイ会話を収録し文字化したものを用いた。ロールカードは表 1 のように、勧誘者が映画に誘い、断り手は「家の用事で田舎に帰る」という理由を提示して、自分だったらどのように誘いに答えるかを考えさせるという状況に設定した。分析対象は以下会話例 1 のように、RQ1 では、勧誘の働きかけがあった直後の最初の断り発話において、会話例 2 のように「弁明」のみを使用している断り発話と、会話例 3 のように不可表現を使用している断り発話の使用頻度について分析する。RQ2 では、RQ1 で分析した 2 種類の断り発話の直後に出現する、勧誘者の言語行動について分析する。分析枠組は、藤原(2004)の断りの意味公式¹と倉本・大浜(2008)の勧誘の枠組²を参考にした。

表 1 ロールカード(日本語版)

A(勧誘者): あなたは明日、映画を見に行きたいと思います。あなたは友達 B さんも誘っていっしょに行きたいと考えています。これから B さんに、明日映画に行こうと誘ってください。
B(断り手): あなたは、A さんから、明日映画に行こうと誘いを受けます。しかしあなたは明日、家の用事で田舎に帰らなければならない、どうしても行くことができません。もしこのような状況だったら、あなたなら A さんの誘いにどう答えるかを考えながら A さんと会話してください。

会話例 1:

A: 明日映画いかない?

RQ1 → B: 明日? 明日ちょっと予定あんだけど。

RQ2 → A: そっか 残念だな。

会話例 2: 「弁明」のみを使用した断り発話

ああ、明日家の用事で田舎かえんきやなんないんさ。

会話例 3: 不可表現を使用した断り発話

明日だめよ。 田舎帰るのよ。

5. 結果

5.1 RQ1 結果

分析結果は、以下図 1 の通りになった。断り発話の中で、「弁明」のみを使用した断り発話は、JNS に 18 組、INS に 11 組見られた。一方で不可表現を

使用した断り発話は、JNS に 8 組、INS に 13 組見られた。また弁明とその他の間接的断りを組み合わせて使用している断り発話は、JNS に 9 組、INS に 11 組見られた。このことから、JNS は弁明を使用して断る傾向があり、INS は不可表現を使用して断る傾向があることが分かった。

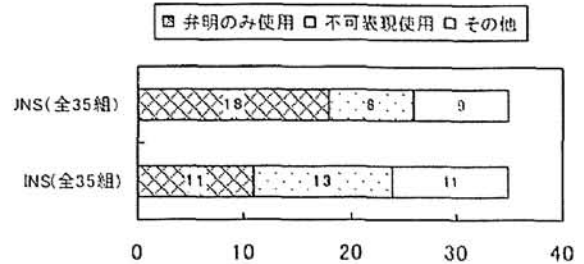


図 1 JNS と INS の断り発話における「弁明」及び不可表現を使用した断り発話の割合

5.2 RQ2-1 結果

RQ1 で分析した「弁明」のみを使用した断り発話、JNS 18 組、INS 11 組に対しての、勧誘者の発話について分析した結果、以下表 2 の通りとなった。

JNS は「そうか」「そうなんだ。いつ帰るの?」「あ、そうなん。じゃ気をつけて」などといった、受諾のみ、受諾と情報要求、あるいは受諾と相手への気遣いなど、受諾を使用した発話が 18 組中 11 組見られたが、INS には受諾の表現は全く見られなかった。

一方 INS は「いい映画なのよ」「チケット代払うから」などの勧誘理由、及び「行こうよ」などの直接勧誘といった再勧誘の言語行動が含まれている発話が 11 組中 7 組に見られたが、JNS には再勧誘は全く見られなかった。

表2 「弁明」のみを使用した断り発話に対する勧誘者の言語行動の比較

言語行動	出現パターン (発話例)	JNS (組)		INS (組)	
受諾使用	受諾 (そうか)	1	11	0	0
	受諾+情報要求 (そうなんだ、実家どこだっけ?)	2		0	
	受諾+気遣い (あ、そうなん?じゃ気をつけて)	1		0	
	繰り返し+受諾 (相手が田舎へ帰るといったことに対して「田舎帰る そうか」)	3		0	
	受諾+断りへの不満 (そうなん?明日じゃなくちゃだめなん?)	1		0	
再勧誘	勧誘理由 (割引デーだから安いよ、わたしが払うわ)	0	0	3	7
	繰り返し+直接勧誘 (実家帰るの?あなたと映画に行きたいのよ)	0		1	
	勧誘理由+直接勧誘 (行かなかつたらチケット無駄になるから、いっしょにいこうよ)	0		1	
	直接勧誘+勧誘理由 (いこうよ、安いよ、〇〇の映画なのよ)	0		2	
その他	繰り返し (秋田へ帰るという断り発話に対して「秋田」)	1		1	
	断りへの不満 ((田舎へ帰るのが)明日じゃなきゃだめなん?)	1		1	
	驚き (ええ?まじで?)	2		0	
	繰り返し+驚き (ああ、そうか、--え)	1		0	
	繰り返し+情報要求 (田舎、なんで、なんで?)	1		0	
	代案 (じゃあ、あさっては?)	1		0	
	確認 (つまり行けないのね)	0		1	
	情報要求 (なんで?)	0		1	
合計		18		11	

5.3 RQ2-2 結果

RQ1 で分析した、不可表現を使用した断り発話、JNS8 組、INS13 組に対しての勧誘者の発話について分析した結果、以下表3の通りとなった。

JNS に受諾の表現使用が8組中4組見られた。1組だけ勧誘理由を述べて、再勧誘を試みている発話が見られたが、RQ2-1の結果と同様に、JNSには受諾する傾向が見られた。

INSには勧誘理由や直接勧誘を使用しているものが13組中7組見られる一方で、受諾と捉えられる表現の「tidak apa apa(大丈夫)」を使用して相手の断りを受諾している会話例が4組見られた。RQ2の結果と同様に再勧誘が使用される傾向が見られたが、同時に受諾の表現も見られた。

6. 結果のまとめと考察

結果をまとめると、断り発話については、JNSのほうがINSよりも「弁明」のみで断る傾向が多く、INSのほうが断りに不可表現を使用する傾向が見られた。断り発話に対する勧誘者の言語行動につい

ては、「弁明」のみを使用した断り発話に対して、JNSの勧誘者は受諾し、INSの勧誘者は再勧誘をする傾向が強いことが分かった。不可表現を使用した断りに対しても、JNSには「弁明」のみの場合と同様に受諾する傾向が見られた。一方INSも弁明の場合と同様に、再勧誘する傾向が強いが、受諾表現も見られた。

JNSのほうが、不可表現使用が少なく「弁明」のみで断る傾向が強いのは、「弁明」だけで断りの意図を伝えることが出来ると判断しているからだと考えられる。そのため、「弁明」のみの断りでもJNSの多くが断りと認識し、受諾をした例が多かったと推測される。一方INSでは、「弁明」のみの断りだと、受諾せずに再勧誘していた例が多かったのは、「弁明」そのものが断りの中で果たす役割がJNSほど大きくないため、「弁明」のみだと断りだと認識されず、まだ交渉する余地があるとみなされ、再勧誘をしたと推測される。INSの不可表現の断りに対しては、受諾が見られたが、それでも全体の割合から見ると少ないと思われる、INSにおいては、「弁

表3 不可表現を使用した断り発話に対する勧誘者の言語行動の比較

言語行動	出現パターン (発話例)	JNS (組)		INS (組)	
受諾使用	受諾+情報要求 (そうなんだ。実家どこだった?)	1	4	0	4
	繰り返し+受諾 (相手が田舎へ帰るといったことに対して「田舎帰る。そうかい。」)	1		0	
	受諾+遺憾 (そっか。明日ねちよっと〇〇の映画って(思ってた))	1		0	
	受諾+気遣い (いいよ 気にしないで)	1		1	
	受諾+理解 (OK。おばあちゃん病気なら帰ってついてあげて)	0		1	
	受諾+感謝 (大丈夫。ありがとう)	0		1	
	受諾+代案 (大丈夫。でも来週いっしょに行こうね)	0		1	
再勧誘	勧誘理由 (新作やってんのよ)	1	1	5	7
	情報要求+直接勧誘 (なんで? いっしょに行こうよ)	0		1	
	断りの理由否定+直接勧誘 (来週帰るよ、いっしょに行こうよ)	0		1	
その他	代案 (じゃああさってはや?)	1		0	
	確認 (明日だめなんだよね)	1		0	
	繰り返し+情報要求 (田舎、なんで、なんで?)	1		0	
	情報確認 (田舎かえるの?)	0		1	
	断りへの不満 (なんでだめなの?)	0		1	
合計		8		13	

明」使用であろうが、不可表現使用であろうが、断りに対しては、再勧誘する傾向があることが言えよう。

注

- 1 Beebe(1990)を元にした、断り表現を機能別に分類した意味公式は、不可表現などの「直接的断り」、弁明、代案などの「間接的断り」、フィラー、繰り返し、驚きなどの、断りとしての機能を果たさない「付随表現」の3つのカテゴリーがある。
- 2 倉本・大浜(2008)「会話中に使用された意味公式及び行為類型とその発話例」において、勧誘者の行為の中の「勧誘」という行為類型の中に、直接勧誘、断りへの不満、勧誘理由、断り理由の否定という4つが挙げられている。
- 3 「田舎帰んなきゃなんだけど、明日はどう?」などと代案を提示したり、「ごめん。用事あるんだ」などと謝罪を組み合わせたりする発話例のことである。本研究では、弁明のみの断り発話に着目することとし、その他のカテゴリーの断り発話は分析対象外とした。

参考文献

倉本美喜子・大浜のい子(2008)「もう一つの勧誘行動 日本人学生による2次会への勧誘行動について」『広島大学日本語教育研究』(18) pp.57-63

西村史子(2007)「断りに用いられる言い訳の日英対照分析」『世界の日本語教育』17, pp93-112

藤原智栄美(2004)「日本語話者とインドネシア話者の断りに関する研究」『大阪大学言語文化学専攻博士論文』

藤森弘子(1995)「日本語学習者に見られる「弁明」意味公式の形式と使用-中国人・韓国入学習者の場合-」『日本語教育』87号,79-89

Beebe,L.,Takahashi,T.,&Uliss-Welz,R.(1990)Pragmatic transfer SLA refusals. In .Scarcella,E.Andersen,&S.Krishen(Eds) *Developing communicative competence in a second language* 55-73.

Goffman Erving (1971) *Relations in public*,London: Allen Lane The Penguin Press

よしだ よしみ/お茶の水女子大学大学院 日本語教育コース
hatchy8@hotmail.com